



玄関の軒下には織田家の家紋が!



### 1 柏原藩陣屋跡

藩主が公的な儀式の場として使った表御殿は当時の5分の1程度、玄関と大書院の一部が残されており、向かいの丹波市立柏原歴史民俗資料館で入館料を払えば内部を見学可能。同館には陣屋の全体像を復元した模型も。

所 丹波市柏原町柏原683 時 9時～17時(入館は16時30分まで) 料 大人210円、中学生100円、小学生50円(市立柏原歴史民俗資料館、田ステ女記念館と共通) 休 月曜(祝休日の場合は翌平日) 問 市立柏原歴史民俗資料館 ☎ 0795(73)0177 ☎ 0795(73)0203



城下町  
柏原  
(丹波市)



お出掛けの際は新型コロナウイルス感染予防対策に取り組みましょう。

### 2 たんば黎明館

明治18年建築の木造2階建ては、県指定文化財。1階にはフレンチレストラン「ル・クロ丹波邸」が入り、誰でも利用できる2階のライブラリースペースは散策の休憩にも最適です。

所 丹波市柏原町柏原688-3 時 9時～18時 休 水曜 料 無料 問 ㈱まちづくり柏原 ☎ 0795(73)3800 ☎ 0795(73)3801 (ル・クロ丹波邸) 時 11時30分～15時、17時30分～22時30分 休 水曜 ☎ 0795(73)0096



玄関の扉上にはおしゃれなステンドグラス



お箸で食べるフレンチがコンセプトです

### 3 中島大祥堂 丹波本店

ショーケースには自社農園で育てた丹波栗をはじめ、丹波の素材を使ったケーキがずらり。和洋のお菓子を販売しているほか、建物や窓外の庭をじっくり眺められるカフェスペースも。

所 丹波市柏原町柏原448 時 平日11時～17時、土曜・日曜・祝休日10時～17時30分(カフェは17時まで) 休 水曜 ☎ 0795(73)0160



かやぶき屋根を模した丹波栗のモンブラン「かやぶき」



まき窯で焼き上げるナポリピザも名物です



## 時代を映す建築物と丹波食材を堪能

織田信長の一族が柏原藩主となつて以来、城下町として栄えた丹波市柏原地区。江戸時代からほぼ変わらない町割りに、織田家ゆかりの史跡のほか、時代とともに役割を変えながら今に伝わる建築物も数多く残っています。

白壁の長屋門が存在感を放つ「柏原藩陣屋跡」は、かつて藩主が住み、政治を行った屋敷。初代は焼失し、文政3(1820)年に再建

された表御殿の一部と、焼け残った長屋門だけが現存しています。「昭和46年に国史跡になる前は、明治時代から小学校として使われ、表御殿玄関前で卒業写真を撮るのが恒例だったようです」と、丹波市教育委員会の徳原由紀子さん。

すぐ隣のレトロな洋風建築の「たんば黎明館」は、明治時代に旧氷上高等小学校として建てられたものを復元・整備した施設です。

女学校や病院としても使われた館内には、丹波野菜を使ったフランス料理のレストランなどが入っています。また、同じ通り沿いの「中島大祥堂」は、柏原藩家臣の住居だったかやぶき民家を再生・活用した和洋の菓子店。建築物を巡る道すがら、丹波栗や丹波大納言小豆といった地元食材のスイーツでほっとひと息つけます。

(取材:文県民だより編集部)



### ル・クロのプチコース

ランチタイム限定のフレンチコースは、前菜、メイン(魚または肉)にパン、デザート、コーヒーが付いて1,950円(土曜、日曜、祝休日は1品追加で2,480円)。写真はメインの魚料理、西洋風茶わん蒸し「鮮魚のロワイヤル」。

問 ル・クロ丹波邸



### グルメ

### 丹波黒豆のバウム「けやき」

店のすぐそばに立つ樹齢千年の大ケヤキ「木の根橋」がモチーフのバウムクーヘンは、丹波産米の米粉や丹波黒大豆のきな粉など地元の厳選素材を使用。1個1,300円。イートインできるカフェスペースも日曜限定でオープン。

問 バウムクーヘン専門店 まさゆめさかゆめ ☎ 0795(71)1265



### お土産

抽選で5人にプレゼント

詳細は6面のクイズへ

# 質の高い演劇を身近に。 文化庁芸術祭大賞を受賞したピッコロ劇団と



コロナ禍で打撃を受けている芸術文化活動。制約がある中での取り組みや芸術文化の持つ力について、県立ピッコロ劇団に所属する劇団員の皆さんと語り合いました。



俳優・演出家  
平井久美子さん

俳優  
橘義さん

俳優  
樫村千晶さん



## 【演劇ワークショップを体験】

1 縄を使わないジェスチャーだけの大縄跳びで全員のイメージを共有をします。2 互いの動きを感じながら棒を通してコミュニケーションを図ります。



第71回公演「いらないものだけ手に入る」。アーカイブ配信視聴（有料）の申し込みは、ピッコロ劇団のホームページから。

ピッコロ劇団 いらないものだけ手に入る

## 令和3年度文化庁芸術祭大賞を受賞

**齋藤** この劇場と劇団について教えてください。

**平井さん** ピッコロシアターは昭和53年に開館しました。演劇の公演をはじめ、地域の皆さんが楽器の演奏や歌、踊りなどを練習・発表する場として親しまれています。また、地域の文化を支える人材を育成するためのピッコロ演劇学校とピッコロ舞台技術学校もあります。ピッコロ劇団はこの劇場を拠点に活動する全国初の県立劇団で、公演活動はもちろん、学校での演劇指導や地域での演劇ワークショップなども行っています。

**齋藤** 昨秋の文化庁芸術祭で、第71回公演「いらないものだけ手に入る」が大賞を受賞されましたね。おめでとうございます。どのような作品ですか。

**橘さん** シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」をベースにしており、近未来、地球から宇宙に移住した人たちが住むスペースコロニーを舞台に展開します。

**樫村さん** アーカイブ配信を行っていますので、詳しくはピッコロ劇団ホームページをご覧ください。

## コロナ禍でも工夫を重ねて活動

**齋藤** コロナ禍での活動は制約があり、作品を発表する機会も減っていると思いますが、どのような工夫をされていますか。

**平井さん** 家庭でも楽しんでいただけるようSNSやホームページで紙芝居の読み聞かせをしたり、劇団員のお薦

めのセリフを紹介したりしています。

**橘さん** 公演のカーテンコールでは、座ったままでできるダンスの動画を事前に配信して、当日一緒に踊ったり、皆で手話に挑戦したりしました。

**齋藤** そういった工夫は大事ですね。県ではコロナ禍でも舞台芸術活動が維持できるよう、ホールの使用料への支援をはじめ、若手芸術家の活動支援や若者の鑑賞機会の拡大にも取り組んでいます。

## 演劇を通して復興を支援

**齋藤** 芸術文化に触れると、気分をリフレッシュすることができます。私は映画が好きで、鑑賞後は新しいことにチャレンジしてみようという意欲が湧いてきます。芸術文化の力は大きいですし、価値があるものです。皆さんは、演じる側としてどうお考えですか。

**平井さん** 東日本大震災の時、被災地で子ども向けのワークショップを開いたり、仙台の俳優さんとお芝居をつくって現地



劇団員が演劇の魅力を紹介する動画。



仙台市内の児童館で行われたワークショップ。

と兵庫県で上演したりしました。被災地の方々には、ほんのひと時ですが楽しい時間を過ごしていただけたのではと感じています。コロナ禍の今は人が集まりにくく、人と触れ合えない中で人々の心に寄り添うことの難しさを痛感しています。

## 子どもの頃から演劇を身近に

**齋藤** 芸術文化には地域を元気にする力があると考えています。皆さんは地域に出掛けて、どのような取り組みをされているのですか。

**橘さん** それぞれの地域の特性に応じて、外国人、子ども、障害のある方、教員・自治体職員など対象を変えながらワークショップを実施しています。

**樫村さん** コミュニケーションの形にはいろいろあり、その大切さや楽しさを知っていただくための取り組みです。例えば、言葉を使わないコミュニケーションの取り方や、見えないものを見えるようにイメージするトレーニングなど、体を使いながら体験していただいています。

**齋藤** 地域には外国人の方も増えており、言葉が通じなくてもコミュニケーションを取って気持ちをつなげることが大事です。また、海外では日常の中で気軽に演劇を楽しめる風土が根付いており、兵庫県でも子どもの頃から演劇に触れる機会を増やしたいと考えています。県内では演劇以外にも多彩な芸術文化活動が行われていますので、皆さんと一緒に兵庫県全体の芸術文化を盛り上げ、地域をもっと元気にしていきたいですね。